

第3回チャレンジカップ京都報告

2020年10月3-4日

報告：特非) 日本パラ・パワーリフティング連盟

写真：西岡浩記

(連盟) 表示は、連盟が報告用として撮影分



大会開催にやっとの思いでこぎつける

第3回チャレンジカップは東京パラリンピックの前哨戦として5月、パラリンピックパラ・パワー日本代表の発表と共に、開催するはずであった。ところが思いもよらなかったコロナウィルスの感染症が世界中に拡散し、3月24日、パラリンピック延期が決まり、4月に入って外出自粛、トレーニング場の閉鎖、イベント開催自粛が次々と発表され、5月の大会開催は難しいと、4、5月はすべてのトレーニング活動が中止された。この間、自宅でトレーニングできる環境のある選手は自主練習

していたが、連盟の60%の選手は、練習が全くできない状況に陥った。6月に入って、ようやくトレーニング場が開き、徐々に練習環境が戻ったことから、京都府の皆様には、大変急なお願いとなってしまったが、10月にぜひ、チャレンジカップを開催したいと申し入れ、サンアビリティーズ城陽の体育館の方々や京都府や城陽市、推進協会の方々のご尽力を頂き、10月3、4日にチャレンジカップ開催が決まった。



この大会は、スポーツ振興くじ助成事業として開催され、開催延期届を提出して、スポーツ振興くじの助成を頂いて大会づくりを行った。



(連盟)

何をおいてもまずは、感染症対策

大会にこぎつけたものの、一番の悩みは、いったいどういう風に感染症対策を取れば良いのか、というところ。京都府からは、NTCを利用するにあたる感染症ガイドラインや、大会ガイドラインが出され、会場に隣接するリハビリ病院の院長からは、コロナウィルスとは、という勉強会をウェブで開催していただくなど、選手も役員も、コロナウィルスを



理解し、それにどう対処するか、という、基本の勉強から、大会づくりが始まった。「体育館に入場する前に、コロナを排除する」ということで、二週間前から、体育館に入る選手、役員そしてメディアの皆さんに体調チェック表を提出していただき、この二週間の体調チェックを行う。続いて、リハビリ病院の先生方が総動員で受付に来てくださり、選手は、間隔を空けて、一人ずつ検温、健康チェックを行ってくださった。そして、手指の消毒のみならず、車いすの消毒も入念に行った。選手にはあらかじめ、マウスシールドや、マスクをつけての練習をしてもらい、これらを装着していてもパフォーマンスに影響がない、と、確認して貰った。

とは、いえ、大会における選手の微妙な表情、見ているものを感動させる、選手の集中力がマスクの下に隠れ気味で、with コロナ下の開催とは言え、生の選手の表情を見たいものだ、と、思ってしまった。

これは、何か対策がないか、今後の課題。マスク着用は役員も同じ。ただ、フェイスシールドを当初は役員全員にさせようと思っていたが、自分の呼気でシールドが曇り、審判や、補助団がシールドの曇りで、正しい判定、とっさの補助ができないことが分かり、危険防止の為に、フェイスシールド着用をあきらめることとした。





選手には、消毒した、ストラップや炭酸マグネシウムの共有が禁止されたので、連盟では、一人一人のストラップと、袋入りの炭酸マグネシウムを準備した。

補助団は、選手が変わるたびに、毎回、ベンチ台とシャフトを消毒し、セッションが終わるごとにプレートも消毒した。

また、メディアの囲み取材も密を避けるということで、リモート取材となり、上のように選手は、パソコンに向かって取材を受けた。

大体において、試合では、想定外のことがおこるもの。そんな時、どういう、対応をすれば良いのだろうか。

つい、密になりがちな役員や補助団との打合せや、コーチと選手の連携。取材陣の良い写真を撮りたいという、強い意志。それらがどういう形で、このコロナ対策とぶつかるのだろうか。密なところには、「密になっている」という檄がとび、つつい、談笑する選手やコーチ、補助団には、「飛沫に注意」と、警告が発せられる。カメラ位置を巡って、ソーシャルディスタンスを取れ、という、主催側と、メディアの攻防もあった。



お昼の昼食も100m廊下というところを使わせていただき（前頁下写真）、昼食時の飛沫感染、談笑による密を避ける工夫がなされた。

大会が始まる前に発熱が観測され、やむなく帰宅命令の出された選手もいた。幸いにも、その後は熱、タン、咳の症状がなく、保健所も、選手のかかりつけの医者も問題ない、ということで、事なきを得たが、関係者一同の感染症対策に対する意識の高さが、今回のチャレンジカップでは功を奏し、「無事」大会を終えることができた。

連盟としては、大会に主眼を置いているために、体育館側や病院や、京都府から見ると、感染症対策に対して、意識の低さを感じさせた面もあった。with コロナ時代に、選手が思いっきり試合をし、メディアが良い映像を撮ることに集中し、そして、連盟が大会運営に主眼をおいて、しかも良い大会を作り上げるのはどうしたら良いのだろう。本年のチャレンジカップは1月に開催予定の全日本大会に向けて、「大会」そのものを変えていかなければならないのではないかという、課題を与えられた。

大会を支援してくださった方々

(連盟)



試合が無観客で行われたため、連盟スポンサーの乃村工藝社さんやパナソニック、学校法人国際学園の方々には、観戦していただけなく申し訳のないことだったが、今後は、「無観客」試合時代にスポンサーの皆さんにどのようなお礼ができるかこちらも大きな課題となった。



今大会は、京都府が共催してくださり、開会式では西脇知事のビデオメッセージを頂いた。連盟がコロナ感染対策をしっかりと守れているかどうか、京都府の皆さんには、監督のような立場をしていただいた。また、WPP O（パラ・パワーリフティングの世界連盟）からは、コロナ自粛後初の大会ということでYouTubeを共有し、WPP Oのフェイスブックでも大会の様子が流れた。

YouTube 配信では、新居さんチームが何もかも引き受け、連盟だけではなし得なかった配信をしてくださった。調べによると1日目の観戦者は1700人。二日目は800人であったようだ。YouTubeは繰り返し見られるので、今後、視聴者は増える、とのことであった。

会場のある城陽市、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、NPO 法人京都スポーツ障がい者スポーツ推進協会、京都府社会福祉事業団の後援を頂いた。

城陽市の皆様には、ホテルから会場への送迎を引き受けてくださり、密にならない為にも選手は、検量時間に会場に来て、試合が終わればすぐに帰るということが実現したのは、城陽市の送迎手配のおかげだった。また、スポーツ推進協会には、受付やお弁当の手配、消毒を一手に引き受けてくださり、大変助かった。

気温が10月の割には高く、水分補給も大切で、協賛をしてくださった大塚製薬のポカリスエットは大活躍であった。



写真上；車いすも消毒。体育館内には、コロナウィルスを一歩たりとも入れないように細心の注意（京都府井岡さん）

写真左：受付では二週間の体調チェック表の提出、検温、荷物用ビニール袋の配布、など、外からのコロナウィルスをシャットダウン。（京都府中畔さん）

元気だった選手達

コロナ下で、練習できていた選手、できていなかった選手、やっと練習を始められた選手、など、各選手各様であったが、多くの選手から「大会を開催してくれてうれしいです。」という感想をいただき、何よりもありがたかった。皆さん、練習不足で、前回の全日本よりも記録は低いか、と、予想していたが、予想に反して、日本記録が5つ樹立された。

女子61kg級：龍川崇子選手。記録 67 k g。龍川選手は、残念ながら東京パスウェイを満たしていないので、東京パラに出ることはできないが、2021 の世界選手権に始まる、パリパラリンピックをぜひ、目指していただきたい。

女子 79 kg級：坂元智香選手。記録 79 k g。東京パラパスウェイを満たしている坂元選手、この後、ワールドカップで 80 k g 以上を目指し、東京パラ参加に期待が膨らむ

男子49kg級：西崎哲男選手。138 k g。この記録はパラランキング 12 位に当たり、後、二つのワールドカップで、140kg 台に突入すれば、東京パラが見えてくる。

男子65kg 級：奥山一輝選手。151 k g。2月の全日本から半年で10kg 記録を伸ばし、伸び盛り、東京パスウェイは通過してるものの、ランキング上位に入るには、170kg 以上の数字が必要。あと一息。若い力の伸びが期待される。

男子107以上級：松崎泰治選手。記録 158 k g。松崎選手は、残念ながら東京パスウェイを満たしていないので、東京パラに出ることはできない。益々、記録を伸ばし、2021年の世界選手権参加標準 175 k g をまずは目指してもらいたい。

今回、大ベテランが欠場する中、大堂秀樹選手と、中辻克仁選手が参加した。大堂選手は、マンチェスターで大胸筋を痛め、連盟ヘッドコーチのアドバイスを聞きながら、今回は、185 k g までにとどめた。幸い、大胸筋の傷も癒え、この後、二つのワールドカップで、記録を伸ばしてもらいたい。

中辻選手もマンチェスターで、転倒、大けがをし、緊急帰国する、という事態があった。大変心配であったが、明るい顔で参加していたので、大丈夫そうだ、と、感じた。記録は、193 k g、そして自己ベストの 203 k g まで、挑戦した。残念ながら、自己ベストはならなかったが、この後の記録の伸びが大いに期待できる。

ようやく練習が軌道に乗り始めた昨今。年明けの全日本での選手の活躍が期待できそうだ。東京パラに近いと思われる、宇城選手、樋口選手、山本恵理選手が欠場であったが、この三人を含め、男子からは、ぜひ5名程度、女子からは、最低でも2名の選手を東京パラに送りたいと連盟ヘッドコーチのジョンエイモス氏と作戦を練っている。



写真左：男子軽量級の選手紹介。闘志を秘めて各自がベストを目指す。



写真左: 大堂選手、今回は、大胸筋の傷はいえたものの、ジョンヘッドコーチと相談して、記録は、185 kgにとどめる。



写真左; 男子ベSTRリフター賞と2019年度年間最優秀選手賞を獲得した大堂秀樹選手。みどりの袋は、日ごろ、合宿時にお世話になる宿舍ロゴスランドからの商品提供。

写真左下; 203 kgの自己ベストに挑戦する107 kg級の中辻克仁選手。

写真下; 女子ベSTRリフター賞を獲得し、笑顔の成毛美和選手。女子のベSTRリフターにもロゴス賞が贈られた。



毎年、その年の各自のベスト記録で、AHフォーミュラーの一番高い選手に持ち回りの年間最優秀選手賞カップが送られる。AHフォーミュラーというのは、体重が違ってても比較できる係数の事。また、大会のベSTRリフターも、このAHフォーミュラーを使って、決められる。今回の順位は、下記の通り

男子

- 1位 大堂秀樹 171.24
- 2位 中辻克仁 161.62
- 3位 西崎哲男 160.78

女子

- 1位 成毛美和 67.54
- 2位 坂元智香 67.50
- 3位 小林浩美 65.59

第3回チャレンジカップ京都大会

2020/10/3	チャレンジカップ Bench															
	Name	Age	M/F	BWt (Kg)	WtCls (Kg)	Wilks Coeff	Bench 1	Bench 2	Bench 3	Bench 4	Best Bench	Wilks Co. x Total	Team	Open Div	Age Div	Misc Div
	山本小百合	1991	F	38.5	41	1.2025	45	-48	-48		45	54.11		O		
	成毛 美和	1969	F	42.6	45	1.1448	57	59	-60		59	67.54	APRESIA Systems 株式会社	O		
	小林 浩美	1969	F	43.7	45	1.1309	55	-58	58		58	65.59		O		
	中村 光	1991	F	52.2	55	1.0411	-64	-54	57		57	59.34	日本BS放送株式会社	O		
	見崎 真未	2002	F	53.5	55	1.0295	45	-48	-48		45	46.33		O		
	龍川 崇子	1976	F	61	61	0.9711	-65	65	67	-70	67	65.07	EY Japan	O		
	森崎 可林	2002	F	66.7	67	0.9343	-67	-67	-67		0	0.00		O		
	水江加奈子	1987	F	66.5	67	0.9355	60	-64	-67		60	56.13		O		
	坂元 智香	1982	F	77.6	79	0.8766	70	74	77	79	77	67.50	医療法人メディケアアライアンスあおぞら病院	O		
	中川 翔太	2003	M	38.3	49	1.3347	-45	-45	-48		0	0.00			JR	
	大宅 心季	2004	M	57	59	1.0907	78	82	85		85	92.71			JR	
	西崎 哲男	1977	M	48.4	49	1.1822	130	134	136	138	136	160.78	株式会社乃村工務社	O		
	加藤 尊士	1988	M	52.6	54	1.1343	120	124	126		126	142.92		O		
	光瀬 智洋	1993	M	56.8	59	1.0926	135	-140.5	-140.5	-140.5	135	147.50	シーズアスリート (株式会社アソウ・アルファ)	O		
	野沢 哲也	1973	M	57.9	59	1.0825	-115	115	-120		115	124.49		O		
	村井都雅夫	1961	M	57.9	59	1.0825	-120	-120	-120		0	0.00		O		
	戸田 雄也	1982	M	58.5	59	1.0772	-133	-136			0	0.00	北海道庁	O		
	奥山 一輝	1997	M	63.9	65	1.0330	144	148	151		151	155.99	サイデン化学株式会社	O		
	佐野 義貴	1968	M	63.5	65	1.0361	136	141	143		143	148.16		O		
	城 隆志	1960	M	69.4	72	0.9942	-132	133	137		137	136.20		O		

第3回チャレンジカップ京都大会

チャレンジカップ Bench																
2020/10/3	Name	Age	M/F	BWt (Kg)	WtCls (Kg)	Wilks Coeff	Bench 1	Bench 2	Bench 3	Bench 4	Best Bench	Wilks Co. x Total	Team	Open Div	Age Div	Misc Div
	清水 健梧	1998	M	65.1	72	1.0241	76	83	86		83	85.00	サイテン化学株式会社	○		
	大堂 秀樹	1974	M	81.3	88	0.9256	170	180	185		185	171.24	SMBC日興証券株式会社	○		
	佐藤 芳隆	1974	M	84.7	88	0.9090	150	150	155		155	140.90		○		
	矢野 鉄治	1975	M	84	88	0.9123	100	105	105		105	95.80		○		
	齋藤 光弘	1965	M	86.8	88	0.8993	103	103	103		103	92.63		○		
	山下貴久雄	1975	M	84.3	88	0.9109	116	116	116		116	0.00		○		
	馬島 誠	1971	M	95.2	97	0.8641	157	157	165		157	135.66	日本オラクル株式会社	○		
	石原 正治	1973	M	88.9	97	0.8900	145	149	152		149	132.61	オリンパステルモバイオマテリアル株式会社	○		
	中辻 克仁	1969	M	102.5	107	0.8374	183	193	203		193	161.62		○		
	渡邊 和幸	1986	M	101.3	107	0.8416	108	108	116		116	97.62		○		
	松崎 泰治	1999	M	133.5	UNL	0.7515	150	156	158		158	118.74		○		

日本新記録表

2020.10.4現在

IPC日本記録(IPC世界ランキング登録記録)				
階級	選手名	樹立日時	大会名	記録
女子の部				
41kg	成毛美和	2020/2/1	全日本	58
45kg	小林浩美	2013/5/12	西日本	69
50kg	小林浩美	2013/12/8	全日本	66
55kg	山本恵理	2019/9/26	Ready Steady Tokyo	63
61kg	龍川崇子	2020/10/3	チャレンジカップ	67
67kg	森崎可林	2020/2/1	全日本	67
73kg	坂元智香	2019/4/13	チャレンジカップ	72
79kg	坂元智香	2020/10/3	チャレンジカップ	79
男子の部				
49kg	西崎哲男	2020/10/3	チャレンジカップ	138
54kg	西崎哲男	2019/4/13	チャレンジカップ	142
59kg	戸田雄也	2020/2/21	マンチェスターワールドカップ	140
65kg	奥山一輝	2020/10/4	チャレンジカップ	151
72kg	樋口健太郎	2019/9/26	Ready Steady Tokyo	175
80kg	宇城元	2017/7/16	ジャパンカップ	186.5
88kg	大堂秀樹	2019/4/14	チャレンジカップ	197
97kg	馬島誠	2019/2/3	全日本	160
107kg	中辻克仁	2019/7/18	ヌルスルタン世界選手権	202
107+kg	松崎泰治	2020/10/4	チャレンジカップ	158
男子ジュニアの部				
49kg	中川翔太	2020/2/1	全日本	40
59kg	奥山一輝	2017/10/12	アジアユース	107
65kg	大宅心季	2020/2/2	全日本	81
107kg	松崎泰治	2016/1/10	全日本	115
107kg以上	松崎泰治	2019/4/14	チャレンジカップ	153
女子ジュニアの部				
55kg	見崎真未	2020/2/1	全日本	45
67kg	森崎可林	2020/2/1	全日本	67